

# ヤマコン 映画界へ進出？

## 「シン・ゴジラ」にポンプ車出演



佐藤隆彦社長

7月から全国一斉ロードショーが始まっている話題の東宝映画「シン・ゴジラ」(庵野秀明総監督)にヤマコン(本社・山形市、佐藤隆彦社長)のコンクリートポンプ車が出演し、地球存亡をか

けたゴジラとの闘いに重要な役割を担っている。ポンプ車が脚光を浴びるのは東京電力福島第一原発でのキリン作戦以来となるが、今回は地球規模とスケールが大きい。「現在も大ヒット上映中で、劇場に足を運んでほしい。ポンプ車が映画に登場するのはおそらく今回が初めてだと思う」(佐藤社長)。

画制作会社であるシネバサルから全国コンクリート圧送事業団体連合会に対して協力の打診があり、原発で使用されたポンプ車と同じ機種を使いたいという話だった。放射能の関係で東京電力が購入したため、同じ機種は現存しない。大型機種を持つ同会社ならという事で、全圧連が紹介した会員会社の中に同社も入っていた。

ヤマコンは10月9〜10日、山形市内の映画館脇に撮影に協力した38台のポンプ車を展示した。「もともと東京に配属していた機種。映画で機種の指定があったわけではないが、最も見栄えのする新型機種を提供した」。映画は興行収入が75億円を超え、ロングランが続いている。世界配信も決まり、100カ国で上映されることが決ま



事務所受付でゴジラの模型が歓迎

った。「映画のエンドロールに協力企業名が出る。これならいい」と笑う。ポンプ車が、当社ロゴマークの「Bicon」の文字がちらっと

えればと今後に期待を寄せる。「ポンプ車はエキストラではなく、しっかりと出演した。劇中では、コンクリートポンプの業界団体に要請する場面がある。名前は出ないが全圧連のこと。ポンプ車を借りた国が協力を求め、ポンプ車を使った作戦でゴジラを倒すのが映画のストーリー。ポンプ車が正義の味方で、地球を救うわけです。大事な場面に使われ、一般の方にも理解が得られたのが一番うれしい」。さらに「また続編があれば、是非協力したい」と、とにかく前向きだ。

一方、ヤマコンは外国人技能実習生を受け入れるモデル企業としても知られる。「ベトナムだけで30人近くになる。サブ的な業務に従事してもらい、慢性的な人手不足の緩和につなげている。10月にハノイへ採用面接に行った。今回で8期生になるが、来年春に来日する。現地の派遣会社(ゼネコン)は今年で創立20周年になり、面接する社員も優秀な方を選んでくれている。シン・ゴジラが出たことで、圧送業への認知度が高まり、ルートにおいても応募者が増加すればうれしい」